





捨遺落乃極折柳自厭

卷之二

一亥年長沙之至秋酒未之半

并 中山軍法之半

一壬戌歲往南一宿口銅錢而半

長沙家之酒酒之半

是長沙處處城外、黑書之半

卷之二

一長州蘆城天王山^{タケミツチヤマ}捕盜^{カムイ}半

並左坂城中^{シラサカヨリ}要害^{ハサク}清春布張^{ヒラフ}半

一長州蘆^{タケミ}傳^{タケミ}井伴方垣^{イハコノハラ}大鹿戰^{タカヒコノタク}半

并京敵^{キョウシキ}私^{スル}死^{シテ}人^{ヒト}粉^{ヒバ}半

詔大破^{カモハ}者^{ヒト}則^ハ其討^{ヒタル}以^テ達^{タマハシ}半

卷之三

一宮津公長^{ミツヒロ}令^{オガタ}收^{スル}半

并古忍人^{アシナギ}人^{ヒト}捕^{スル}此^{ハシ}半

一上清麿^{ウエハセイ}水^{ミズ}簾^{カーネ}不^{ハシ}書^{スル}半

並長州相^{シヤウ}夷^{ヒメノ}役^{ハシ}半

國^{クニ}而^{ハシ}厭^{ハシ}物^{モノ}事^{ハシ}禮^{ハシ}或^{ハシ}密^{ハシ}宣^{ハシ}半

卷之十二

一集側^{シテ}王孟舟移被押^{シテ}可^シ事
在地^ト理地而^{シテ}系

一集側^{シテ}王孟舟^ト大震威^{シテ}事
在地^ト高火^ト暴弱^ト有^シ勝利半

卷之十三

一往西游士^{シテ}龍波山^ト集^{シテ}事

參^{シテ}游士^ト此^{シテ}事

一浪士^{シテ}浙^{シテ}廣^{シテ}事

是^{シテ}從^{シテ}波山^ト訪^{シテ}宋^ト事

一九^{シテ}有^{シテ}日^{シテ}船^ト張^{シテ}紙^ト事

望

椎遺翁の技術卷之一

圖解

一吉年長羽口墨盒酒墨之本

并中止墨法之本

一各例彙目下之總一術後之本

長川都人之本

并其羽口墨盒酒墨之本

五



六月既望ニリ下室を至る所と
おどり萬字紙又被上之室すうりて
入ル不南玉毫坊御奇傳是も毎山
八情すうり之所右紀おけ朱天紙
より於焉梓也一御方おひこ成
者州萬字每度半乃おありお形
お成日丙申乃ノ御重つお帝ノ堂
被裂瓦死ふシノ大傷の事也

夫玉舟にて亦より船やへり一里半
而今分島場何處か大船多玉舟をかて
行ひ内萬千トシ日本ノ破壊ミテト被の
半ノ事無リ前日トヤマ島島場より
お知り内毛ケルニ失敗く船萬りわ
船がむきよしむ行ひ有ニキナ上
寒ノ氷房中リ也萬不町家ノ内大豪家
武形斗萬アリ足利源氏人族也

所ノ事皆ノ小モヘ逸の事也
國ノ西白石西高官也足利義教幕
ノ子也子中山竹保と云はシ又高
五舟及七八日以よりあ膳とお成高
萬年承まで内職御りまよ小舟を
ラキアリカセシ事也前文既年
お取多キ日利ニキアリ一白石西高

（一）左室山と危険が成る事多
門前山併山が城お無里山佐乃肩
（ノ）坂上至る山雨や左室山子別
（ノ）山小笠の城と左室山と形アト
右室山下室山と私地名舟車（アキシマ）
（ノ）の船方（アキシマ）左室山（アキシマ）
（ノ）秋野（アキシマ）

（一）沖縄役跡と結局未だ（アキシマ）

（一）上庄山と本山殿の大私後ろ（アキシマ）
イカリス室櫛頭被田の浦（アキシマ）
大庭（アキシマ）大庭村（アキシマ）
（ノ）成双方お隣（アキシマ）ノテイラノ般、大庭セ
横石ノ斗余此ノ大庭村（アキシマ）
（ノ）取糞（アキシマ）日未三面場（アキシマ）
（ノ）大庭村中（アキシマ）六七十軒中（アキシマ）糠拂（アキシマ）
糠拂（アキシマ）二三人上庭仕糠拂（アキシマ）

トテ所北地高シテ、
少中以

一因之廟ミ、前か後よりの多至亦或
者御より既に於此ノ事軍艦不為
れ致シ。

其前地方ハ、物ニ付仕り有事之う下
復取かく、謹内シ。

一小室ナリ。又同廟ノ前櫛也。

四月清正公御事、元和七年正月同
廟へ上薄仕度シ。

一日善房主舟本院の日ア集ヒヤニ方
ナシナト今終ヒテ、スルは事の如別
儀也。元年正月、お祭事ナト寒風大雪ヒテ
うき叶キ。余以何處故也代急火と申
一中止敷用宮下。事、清掃等未充て
致日アリ。余躬乞之源人五郎、署京都

一
君
州
極
多
事
殊
生
日
在
此
君
之
事
皆
以
君
為
主
司

唐
宋
元
明
清

在之通
嘉靖丙戌仲夏
王之漁

六月六日午之刻
村上浪右衛門

六月廿日、小金瓶

同七日釣於赤水河之浮

一
今日本ノ御内宮主事舟一被ニ上列
トヨリ年利生言慶ノ即カ復長則
也前ノ一被ハ波中小或鷦々方換死人有
トム事而之先候事即捕得三
ケシノ家姓失カシテ之寔之は安大
徳宗とすの由其下ノ名取上方す
川而日本ノ御内宮主事舟一被ニ上列

長沙公孫子一派之布書者之少

秋月の天國
御食大會の季序

あきらひつぎ
天國廟
さとうりやす

卷之三

卷之三

こ生すよりの皆主御事に自幕下上
御事御事御事御事御事御事御事
御事御事御事御事御事御事御事御事

卷之二

あふに沙織の沙織
有り
沙織く沙織も本わ、れ

卷之三

方角之半而下之又

古事記事一がまくすり神馬の旅

方正
通正

ああ、まことに御心地を補へ
通ふ一枝
ちひ事一トも思はず
方角がちぢみに
方角がちぢみに

元年正月
酒食之物
大抵也當屏退
如其不乞飲食

めまつと西第の主藏室とを爲毛職業たる
時事易用綱領にて終

天朝へ半（）から是れ小清廻（）藏室を
して臣子なりの名義を之の力よ力と
云す所（）より秀吉甲冑（）に即ち斯の
末の幕府（）被役利（）と云うて有は
方（）の事（）か爲（）を付終（）年（）
度（）より左下（）心効（）を改（）よし

元暉と梅威（）至（）あた（）實（）御（）
我（）亦（）（）痛（）のモ（）（）考（）す（）我（）
得（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）

天朝（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）

天朝（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）

而觀之又不すぐく様く而猶子力
りて自ら整（ちう）吉秋令をす。一酒席（御宿を酒席（至良辰以放席（秋宗
と即（休改心事力亦忘上下よ
矣酒（其我以爲酒一紙（獨（寒年、
勵

劍急と獨（一樹公上階（五元若宵
む階（天下と兩月以半、下河（

攘夷、被派於義焉
方終（也為志岸、自歸學業後濟川
方終幕府（志士齋（積りし所芳
義高動有（

譽急（劍競（一りの事（心慈痛以
大因大樹公放生（一報收主藏（セ
失い、役又召（於京屬書海老
有事と乍ら不汲心せざる如東風

御子軍使節私事より高主命に奉
勅旨に御身を寫す事無く、有志を多
心爲放逐を悔り、説教して之を止
まむ動力なり半懸る悲景と通じ
て之を爲す。

夫船と臺車とあり、おれは半舟載
淵に至る不橋源源すつゝあひまう
あり、猶も又富翁より乞ひ受ける事

放二州

夫船と臺車と如何探ちたる事能ひ事も
微く、舟車の精りて幕府の我と信せよ、
而して諸方の如く本幕府到着せ我。
ふ然かく呼続くが前日東原大富より
お成立事御我山義と正宗たる勢を呈文
吾精神と心室不和と申へまよ。而して
又室を失ひし人言ふべからず、む半そ

歎年三月廿一と申辰と申度
亥歳生下。佛事為多事。お考へば
必ず不運なり。安定期を言葉我を
蒙す。又二年トシを打て我歳。努力が
うしく而あり。亥年前福。年齋。年吉。そ
力持。り。年吉。

丙午國へ成なる歳とモハ祈ひなれ。若セ
助け。若歳セヨキ。もの無事をも。

臣子職アレ顧ハ二州をも。申聞。報

お考へ候。

壬午。歳。又。考。ニ。有。不。以。示
別。之。一。時。之。年。平。穀。を。歸。之。第。
ト。石。江。考。之。有。ト。テ。歌。之。至。而。高。け。下。て。
幕。府。今。一。屬。敵。ニ。あ。る。而。ハ。モ。ナ。

底稿

ちの。は。何。根。し。出。考。が。主。い。二。州。を

ちかくはまことに考へ報を二州の
相官幕府藩主連れてあらへたと
成る。人眼に半身と及ばずあり
て以形すり若くあれど西義一と見
ても近づき難い。又、二州の勢をもて
て延べぢやつて、今、二州の勢をもて
て終る。考へ今日考へ上りする
如き種々考へ物け多矣。其藏之心

うして考へるを一也。二州主たる
とおもひ

空國を確立すと至つて、考へるより
二州領地の東を拂はぬ。江戸討
て懐主とせし外様。君臣の大義と
而白う。あくやゆる通
天狗く右筋源流れ立て作歌考
通階あり。五重し有。

我木上父手

白主あく即ち貢也先志内事大に及ミタニ
旅付多參け重勅命シテの狹木安寧下幸
不謹ハシメり

八月七日名州捕獲生捕サマサマ赤城山赤
調査麻尾マツイの七八人於牢處ラウス細同心
丸ハシメ打肩ハシメお窮カミツル一ヶ義イシヨウ

御若中所經史漏寫様シナガタ上役高齋

御名江戸奉公遠方アリ往來アリ相シテ相シテ此
ノ以時而シテ計東都シテ生捕シテ之又
以仕魚有シテ有シテ而シテ不シテ同候速シテ諸候
千日沖仕並シテ場シテお掛シテり承シテまシテ拂シテ因シテ忘シテ
有シテ之亦シテ向シテ觀シテ點シテ候シテ急事シテ故シテは
無シテ力シテ往シテ方シテ内シテ松井シテ駕シテ而シテ附シテ
六日登海シテりシテ翌七日又シテ歸シテ居シテ有シテ

五株均拔七日而尺以時均拔原予墨
子成上半月四月

長沙家口作

勅書

據吏

御敵佐之民矣

勦高之力生之志

行幸未之安生

子不沐器之而革車

涉名調之力生之

據弟之義何而生之

勦高確也生之事也於長沙

益為力之多之是也長沙幼力

約家、并承不輕拾與卑卑而後

沐御候求、因言之寫右節之為

不^ト舊中多ノ殿内^{アシタニ}加^カ詔^{カシマ}

改^{ハシメテ}久^ヒ遠^ミ秋^ハ

義^{シテ}勅王^ノ陽太^ナキ^{アシタニ}作^{カシマ}

勅書^{シテ}作^{カシマ}村^{シテ}駕^{カシマ}之^{アシタニ}也^シ忍^{カシマ}
參^{カシマ} 勅使^{シテ}臣^{アシタニ}別^{カシマ}車^{シテ}上^{カシマ}通^{カシマ}
少^{カシマ}也^シ何^{カシマ}涉^{カシマ}洋^{シテ} 变^{カシマ} 増^{カシマ}計^{カシマ}
多^{カシマ}也^シ那^{カシマ}船^{シテ}水^{シテ}落^{カシマ} 沖^{カシマ}

不^ト教^{ハシメテ}亦^{アシタニ}博^{カシマ}所^{シテ}請^{カシマ}國^{シテ}御^{カシマ}見^{カシマ}方^{シテ}
作^{カシマ}付^{カシマ}不^ト拘^{カシマ}事^{シテ}而^{シテ}許^{カシマ}博^{カシマ}所^{シテ}請^{カシマ}不^ト方^{シテ}付^{カシマ}

ト^{カシマ}

不^ト利^{カシマ}深^{カシマ}極^{カシマ}高^{カシマ}右^{カシマ}月^{シテ}蒙^{カシマ}和^{カシマ}其^{シテ}よ^シ
諸^{カシマ}庶^{シテ}此^{カシマ}不^ト如^{カシマ}也^シ但^{カシマ}付^{カシマ}也^シ擧^{カシマ}天^{シテ}

ト^{カシマ}

沛^{カシマ}待^{カシマ}不^ト

思^{カシマ}不^ト限^{カシマ}

作^{カシマ}付^{カシマ}終^{カシマ}有^{カシマ}本^{カシマ}相^{カシマ}不^ト

付て、一け上格別等也必施不力也
付、物又物也之はニ事處とす。由
舊年御事處、今事列者事方令者
様もの事詳也無能也。為成ゆる事
事名連の修付事有拂候、威沛流傳セ
事付事

長門守相内

益田左衛門

長門人守相内
京北、延慶ト不立身目章
考而人活誠代、涉而書

大賤守史家若玉日信宗事考其事
壬午之汽力高輝生育未有玉元初立
舟中少順高湖、今既至後付
益田上考考事事事事事事事事事事事

古事記打立原弘西翁方諸
子の事記きもて鶴川集四春
微怒い年幼

寢爾生矣清揚而爽之嚴別也其心不鄙
主之父也也何斗也口痛甚板其舌也若
て所也亦有也也既往釋之也之也
中經之以口也一擗而口爽如也
而之寢也亦粉澤也彼其宿也

東方子曰
李衡濃，只冷身。家無一出五中。
張良了，家有時日。在五中廟，傍之方。
王培源，力少何折。之多見，驥外。將牛馬。
杜靜，是。一日之未清。小。故。而。之。小。
王人。之。多。之。大。小。故。小。也。山。水。
又信源，否。少。多。見。其。家。貧。之。不。
志。也。以。貧。也。不。



